



次の文章を読み、あとの問に答えよ。

(50点)

1 大納言 * 成通卿の鞠は、凡夫のしわざにはあらざりけり。さまざまにふしぎに **A** 事のみありける中に、鞠を高く蹴あぐる事、1 なべての人には * 三かさまざりたりけり。ある日、鞠を高くあげられたりけるに、辻風の物を吹き **a** あぐるやうに、鳶・鳥付きたりと **B** ほどに、空にあらりて雲の中に入りて、見えずしてとどまりにけり。不思議なりけることなり。父の大納言、* そのかみ仏師を召して仏を造らせて **b** あられたりける時、* はしの御簾をあげて格子のもとをよせかけられたりけるに、成通卿いまだ若かりけるに、庭にて鞠をあげられけるが、鞠、格子と簾との中に入りけるに続きて飛びいられるが、父の前、* 無骨なりければ、鞠を足にのせて、その * 板敷を踏まずして、* やまがらの * もどりうつやうに飛びかへられたりける、**X** にあらざりけり。「我が * 一期に、このとんばうがへり一度なり」とぞ自称せられける。おほかたこの大納言は、かく若くより早業を好み給ひて、* 築地の * はら、もしくは * 檜垣のはらなどを走られけり。また屋の上に臥して * 棟よりころびて軒にては * 安座せらるるをりも **c** ありけり。父の卿、**d** 制止せられけれども、かなはず。この事を鳥羽院聞こしめして、御制止ありけれども、なほやまざりければ、御前に **e** 召して、「汝が早態を好むは、何の * 詮かある」と仰せ下されければ、「さしたる詮は候はず。ただし * 拝趨の間、**C** 召し具し候ふ * 僅僕、一兩人には **f** 過ぎず候ふ。雨の降り候ふ日、一人は笠をさして、* 車の簾を持ちあぐる者の候はぬ時、車の * 轆を土に置きながら、片手に左右の * 袴をとり、片手には簾を持ちあげて飛び乗り候へば、**2** さらに装束も損ぜず、奉公第一の用なり」と申されければ、その後は、**3** 院、御制止なかりけり。

(『古今著聞集』より)

注

*成通_ニ藤原成通。 *三かさ_ニ三倍。 *そのかみ_ニその昔。 *はし_ニ家の中で外側に最も近いところ。
*無骨_ニ無作法。 *板敷_ニ格子の外側の縁側の板。 *やまがら_ニ山雀_{すずめ}。 *もどり_ニ宙返り。 *一期_ニ一生涯。
*築地_ニ泥土を積み上げて造った塀。 *はら_ニ側面。 *檜垣_{ひのき}_ニ檜の薄い板を編んで張った垣根。 *棟_ニ屋根
の中央の一番高いところ。 *安座_ニ安定した姿勢で座ること。 *詮_ニききめ。 かい。 *拝趨_ニ宮中に参上する。
*僮僕_ニ召使いの少年。 *車の簾_ニ牛車の乗り込み口に下げる簾。 *轆_ニ牛車で、牛と車をつなぐ二本の長い棒。
「轆を土に置」くと、車の前方が下向きになるため、後ろの乗り込み口が高くなる。 *袴_{すそ}をとり_ニ着物の裾をたく
し持つ。

問一

傍線 a ～ f の動詞の (i) 活用の種類、(ii) 活用形として最適なものを、それぞれ次の中から選び、記号を記せ (同じ記号を何度用いてもよい)。(12点)

- | | | | | |
|------------|----------|----------|----------|---------|
| (i) ア 四段活用 | イ 上一段活用 | ウ 上二段活用 | エ 下一段活用 | オ 下二段活用 |
| カ 力行変格活用 | キ サ行変格活用 | ク ナ行変格活用 | ケ ラ行変格活用 | |
| (ii) ア 未然形 | イ 連用形 | ウ 終止形 | エ 連体形 | オ 已然形 |
| | | | | カ 命令形 |

問二

A C に最適なものをそれぞれ次の語群の中から一つずつ選び、適切な活用形に直して記せ。(6点)

- A ありがたし・うしろめたし・すさまじ・よしなし
- B かしづく・なやむ・ののしる・やつす
- C いたづらなり・かたくななり・すずるなり・わづかなり

問三

傍線 1・2 を口語訳せよ。

(10点)

問四

傍線**3**とあるが、それはなぜか。三十五字以内で以下の空欄を埋め、説明を完成させよ。

(12点)

という成通の返答に納得したから。

問五

X に最適な語句を文中から抜き出して記せ。

(5点)

問六

問題文を内容の上から二つに分ける場合、後半はどこから始まるか。後半の最初の五字を文中から抜き出して記せ

(句読点等も一字として数える)。

(5点)